



百物語

一

達13
1835
/



門入達18
1835
卷 1-10

近世百物語十卷を著者名を録し其の記事に依り推測せざるに蓋
天保三癸卯の間に市尹たりし大首安房守の隨録を華山の
獄を脱する一條にして之を知るよし又山崎義成の主人たりし
ちよに因りし之を推しおし流布の別本未々聞ふを亦世
乃者頼の一珍むと郎ありし明世五十四月日

近世百物語卷之一目録



一廿十五男

精神懲懶惰

夢與神和歌

小女哄夜盜

蟾蜍除火災

筆談賞對句

夜鬼清古攢

三女之忠者
惡魔棄虛心
魔神使人踊
遊女用茶會

近世百物語卷之一

一世十五男

赤永戊申の歳水戸の農氏一棹一腹して十五男を産み
二十歳死すとして成長せり黄門公少り凡そ男中と
城の中を内をたぐる



常陸國 那波村

農氏 二十歳
妻 二十歳



精神總懶惰

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
吾九	吾九	吾九	吾九	吾九	吾九	吾九
十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	悴
吾九	吾九	吾九	吾九	吾九	吾九	吾九	吾九
十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲	十七歲

かゝる事々々をわらへりてしむ城神のてらりしに
あふみかゝるものありてあへりし

子與神和奇

前記のてらりし河左近死去ありしに子與伊丹清太郎
後記子とわらへりし大正清太郎は城中ありし翌年五子
あつた年の子與清太郎が子與左近ありては
そ何とてあつたかといふは清太郎のてらりし教のてらりし
教のてらりしとて教のてらりしとて教のてらりしとて

是とては清太郎のてらりしとて

あつた年の子與清太郎のてらりしとて

とては清太郎のてらりしとて

あつた年の子與清太郎のてらりしとて

あつた年の子與清太郎のてらりしとて

清太郎のてらりしとて

あつた年の子與清太郎のてらりしとて

あつた年の子與清太郎のてらりしとて

治公同年のりよあし成唯志中家前の今平
 初お造りおふじ家の持の持初は後職といひ七旬の
 有といひその名はた方なまれのまに後たさまの
 條多あふふは名前の唯志といひつらに花とてあ
 してあしといひ初名方初とよこしとあ
 言初の初といひあまあけの初とあしといひあし
 唯志といひあし
 言初の初といひあまあけの初とあしといひあし
 唯志といひあし

小女共夜登

同名是小園を落第といひあまあけといひあし
 之園持といふ案が方といひあまあけといひあし
 此年中風をてあまあけといひあまあけといひあし
 流をさみりといひあまあけといひあまあけといひあし
 初の初といひあまあけといひあまあけといひあし
 月影を初といひあまあけといひあまあけといひあし
 あしあまあけといひあまあけといひあまあけといひあし

見危而致命君子猶書紳今獲之少女宜矣駭斯
人問少女何產武州高節氏姊妹有兩女姊元與妹
茂平生尤友愛至孝順孝二親於元方二八茂毛
長河爺偶他迎一僕乃隨跟夜漏已數刻寂々
闔四隣乘間劫賊入提刀声色賤河孃亦膽氣欲
捕抱賊身力素難當賊投孃々顛眩揮又電光閃孃
命一聚塵姊妹冒刃進奮然何所捕妹甘敵河孃抗妹
執刃鞘援家室一婢子一名曰箴左死力翼翼姊妹見

此頗返巡僅次婢子臂於身竟逃奔希覩傳播易
嘖々市井喧懸令聆審錄遂報之城圍旌賞亦特例
不是錢銀女姪存姊妹士誕婢忠純一女每見亦女義勇
茂性真一復與今茲及事則去戊申嗚呼乾近世士風
漸湮淪誰能特能採國艱信生道外層屢未伯等
海諷紛紛比翼無誤大節為妾所嘯

嘉永二年己酉孟秋之日

古松齋主人稿

惡魔無虛心

不見天王寺妖靈屋一平歌終而去 獸跡滿座鳥
時醒無所見也而有疾云々

松女用茶云

移言系自河津万字屋之松見流長松の松女
縁の尾居の古下歳上田家也の女子云々宗備流云々
茶事と能くは流記之年と首とるがた云々云々ある
茶事と信す

一柳物

遠州産茶の事云々云々云々云々云々云々

一風呂

唐銅切掛菊の形

一茶

海老作

一小板

織物

一香合

漆付の茶碗云々云々

一茶斗

唐銅脚付の茶碗

一巾着

急須の南無

一茶入

一茶印掛の茶碗

一水指

音磁

一葉入

一葉碗

二葉

三葉

飯

汁

向

梅

相久形 名茶 善徳 ありの字
中 松 丹

梅曲

梅りや

あさうあまき

かき鯛おろしとびしう肉

輪をから梅をけきさようあさう

焼物

吸物

煮物

香の油

菓子

惣菓子

茶

小鯛塩ゆ

唐辛子あじ

かかかきしけ

ゆるしけ

梅をまじけ

紅葉あさうあさう

梅の白

吉

西村宗亮

原清

三浦

中野

岡田

中野

山崎

白川

公

名

山崎

吉村

三浦

原

中野

岡田

附記 嘉永二年十一月廿九日

山崎宗亮

一 研物

山形紅毛如安三層

三層

あいのそららりあめくし
しそらけし 時をたふす所

梅屋

梅つらひりかきそそ 風ふきいれ
まのかりをふあさこいれ けり

一 谷

石物織部石指せやうらめは

一 香

古除け丹の子

一 瓶入

宗室作三印物最良

一 水指

唐銅抱神

一 茶入

名物白井明彦相持
名書といふ

一 茶碗

雲馬土流 赤土の筆
書者をり作 守印
そののちのちえりまの山 宗鑑

一 茶筒

唐銅補信作
銘唐銅

一 巾着

飯

白片

け

梅屋

たら作り
りしりりり ことひ
ことひ

鯛の身ららめ

物

物

物

物

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

